

大項目	中項目	小項目	努力目標	現況	意見、提言等	今後の学校改善に向けて	
地域に開かれた魅力(特色)ある学校づくり	学校協力者会議	組織の充実と活性化	学校協力者会議を全教職員に周知し、年3回の会議を持ち組織の充実を図る。	* 外部の声も積極的に受け入れ、信頼される学校づくりをめざす事ができた。更に、学校教育活動について理解と支援を積極的に求め、啓発活動や情報提供に努めた。 △学校協力者会議での意見を受け、教職員全体としての取り組み改善や児童の変容を求めて、協力体制を更に深めていく必要がある。	* 年3回の実施をし、PTA・教職員の参加があり教育活動がよくわかりよかった。 △子どもの様子をもっと知りたい。 △関係者間のつながりがあるとよい。 △参観授業のあり方は常によく似ていて、指導者との関係・様子がもう一つ見えてこない。 * 数値目標があり基準がわかりやすい。 * 協力者会議に出た話題を、学校便りにすぐに掲載して保護者にも知らせていただいた。	* 学校協力者による参観は、休み時間も含めて見ていただく。	
		教育活動全般に対する情報提供	本校の教育目標・教育課程・授業の取り組み・児童の様子等を説明する。(3回以上)				
		学校協力者による授業参観	会議の時に授業参観、および運動会等を参観(年3回以上)				
	学校評価	自己評価結果の公表	協力者会議の方々や保護者にたよりで、およびホームページに公表		* 2学期に行っている自己評価のアンケート結果を、これまでも保護者には学校便りに掲載し、地域へは協力者会議や通信等で説明・公開してきた。 本年度は更に本校の評価書をホームページで公開。	* ホームページでの情報公開に伴う管理事務等の負担が増えるのではないかと。人員の確保が課題になると思う。十分に説明・公開がされている。 * 学校便りはその性格上、内容に偏りがあるのではなからうか。外に出せないのがあるのではないかと。 * ホームページの公開は良いがPCのない家庭に対する配慮が必要である。ホームページの更新が4月の後半より良くされている。公表されているのなら評価はA評価でよい。公表に終わらず、生かしていかれたかというところで目標を高めていく。	* 伝えたいことは学校としてどんどん公表していく。
		学校関係者評価の公表	協力者会議の方々や保護者にたよりで、およびホームページに公表				
		学校関係者評価結果の公表	協力者会議の方々や保護者にたよりで、およびホームページに公表				
	幼小・小中連携活動	子どもの校種間交流や教員の出前授業	1年・5年・委員会と幼稚園児との交流(年3回以上)、中学校から6年へ出前授業2回以上		* 北大路中学校より出前授業を2回実施(理科・算数)。小学校の6年生の授業を公開。来年度への連携ができた。	* 出前授業はおもしろい取り組みである。 * 合同研修は、地域の研修会や北人教も含めて良いのではないかと。 * 学区の老健施設への訪問・交流も授業に関連していつかはどうか。 * 新型インフルエンザで予定していた交流が減って残念だった。子どもたちは、異世代、年齢の違う交流は大変楽しみにしているので良い取り組みだと思う。	* 幼小中の連携、教師間の参観等をできるだけ取り組む。参観について校種間で連絡を密にする。 * 中学校の出前授業の教科を広げていく。
		校種間の合同研修会	幼稚園との合同研修会(1回以上)		* 富士見幼稚園とは1年・5年・ふれあい委員会等で児童と幼児の交流をし、教師の合同研修会を1回実施。また、作品展や授業参観・発表会・音楽会の練習等の交流も行った。		
		校種間の授業公開	1年は幼稚園に、6年は中学校に授業公開。(1回以上)				
	安全安心な学校づくり	危機管理マニュアルの周知の徹底	防災・情報管理・安全・施設管理等の教員研修にて徹底		* 自らの生命・身体を守る習慣が確立され、安全に対応する能力を育成することができ、危険を察知する能力も身に付いた。 * 夏季休業中に消防署の指導により教員研修として防災の研修を受けた。	* パトロールの啓発が良くできている。避難訓練や集団下校・引き渡し訓練もありとてもよい。 △PTA会員のパトロールが見えてこないところもある。地域を含めて改善が必要。 △施設・設備のチェックを高め、今の時代にあった施設面での充実が必要。	* 学校として教職員がパトロールしていることをいろんな機会に伝える。(地域関係者等のパトロールも考慮しながら)
		教員による登下校時および長休み・昼休みの安全パトロール	毎日、輪番制で行う。		* 児童の下校時に校区のパトロールを輪番ですることにより、児童の下校の様子や地域で児童を見守ってくださる方々との情報交換もできた。		
		地域関係者・保護者による登下校時安全パトロール	地域関係者・分団委員・保護者・スクールガード等との連携		* 避難訓練も回を重ねるにつれ、自分たちで判断して行動がとれるようになってきている。 △決めたことは徹底して行う姿勢が大事。		
災害時における児童の避難・集団下校・引き渡し方法を周知徹底		避難訓練年3回、集団下校・引き渡し訓練年3回					
子育て支援	保護者の子育てに対する積極的な支援	学校便り、通信等にて学校の取り組み内容を情報公開、地域・PTAとの連携による子育て支援		* 学校便り、学級通信、ホームページ等を通じて地域に根ざした教育活動の展開がなされ、学校に対しての信頼を確保できている。	* 学校の取り組み内容は学校便り等でよくわかる。 * 問題や悩みを持った保護者への支援は十分にされているが、問題化する前から取り組む必要がある。公民館や地域と協働で啓発運動等をしてはどうか。 * 保護者側の学校への協力・理解をすることが必要。保護者の横のつながりを強くする方策があれば、なおさら良い。	* 懇談での内容を考え、子どもの様子を伝えたり、話を聞いたりする場を持つ。	
	保護者の悩みを聞く個別相談の実施	全保護者へ家庭訪問・個別懇談会を各1回。要望があった場合は随時。教育相談日2回		* 保護者の悩みや相談を受け入れやすくするために、家庭訪問・個別懇談・教育相談等個別対応ができる場を設け、保護者に通信等で周知しているのも活用も多い。また、保護者同士や児童と保護者が交流する場を、ひびきあい活動や学年・学級懇談会を通して行っている。			
	保護者同士の交流や学習の場を意図した参観、懇談会の実施	参加型授業参観、ひびきあい活動、PTA行事参加、学校保健委員会、スクールガード研修会、懇談会5回					
健やかな体の育成	早寝早起き朝ごはんの実践	全国学力学習調査結果から実態の把握とバランスのとれた食事と睡眠時間の指導		* 各学期毎に核となる魅力ある体育学習を設定・展開し、生涯スポーツの基礎作りと体力向上を実践し、その効果も新体力テストの結果に表れている。新体力テストの実践に伴いその後の分析及び課題追究。	* マラソン大会等に向かって家でも練習して楽しみにしている。 * チャンピオンフラッグを目指した大会は良いと思う。 * 家庭教育まで学校がしなければいけないのは大変。行政・支所が取り組んでいけばさらによい。	* 「早寝早起き朝ごはん」をキーワードにして食育教育を活性化。保護者にも学校の取り組みを周知していく。	
	家庭と連携した食育の推進	給食指導や学校保健委員会での食育推進		* 児童にしっかりと食事を取らせている家庭がほとんどである。 △児童へ給食指導や食事のバランス等の指導はなされているが、更に家庭教育とつながる食育を展開しなければならない。			
	たくましい心と体を育てる魅力ある体育活動の実践	水泳指導・運動会・縄跳び大会・マラソン大会を中心に据え、県平均を超える体力づくり					
	児童の実態把握や体育科指導法の共通理解(体育通信・研)	体育部会・体育通信・研修等による共通理解					
地域の教育環境の活用	地域住民の教育力の活用	お話し会、読み聞かせ、昔の遊び、戦争体験等ゲストティーチャーやボランティアの活用		* 地域や保護者に対して学校の情報を可能な限り提供し、説明責任を果たすことができた。また、地域の教育資源が相互に生かされた活動が展開された。(各教科での学習教材、ゲストティーチャー、生活支援ボランティア等) * 教育風土を培う交流会に5年生の児童が発表をしたり、学区の文化祭や手作り作品展等に出品したり等地域行事に積極的に参加することで、日頃学校とは縁のない多くの住民の方にも学校の情報を公開できた。	* 広い知識を持つことが大切と考える。この地域は恵まれているので、是非活用していく事が大切。 * 地域の協力を得て実施しているのが良い。	* 地域の人材活用等、学年の系統性を考慮して進めていく。	
	地域の豊かな自然、文化、伝統の活用	盛越川、園山公園、茶臼山、寺院、工場、工芸等の学習活用を広める					
	授業・活動・環境づくりの推進	地域行事へ参加・地域に出かけることで情報公開と情報収集					

大項目	中項目	小項目	努力目標	現 況	意見、提言等	今後の学校改善に向けて
確かな学力と知・徳・体の調和のとれた豊かな心でたくましい心を育成する創意ある教育の推進	道徳教育	生命を尊重する心や公共心、公德心などの道徳的実践力を育てる活動の実施	道徳や各教科等の授業や学校生活全般で指導を深める	* 一日参観日に全校で道徳の授業公開をした。他の参観日にも積極的に公開をした。 * 児童へのアンケート結果より、道徳の学習や人権教育で学んだことを日常生活に生かしている児童が多い。落ち着いて規範意識の高い児童が増えている。 △資料の整備や教材研究を、更に意識して取り組む必要がある。	* 道徳の授業を参観して、物の善悪を教えることの難しさを感じました。学校でも意識して取り組み子どもたちに他人の気持ちなどを意識させる授業が増えることをぞみます。 * 道徳教育の充実、小中連携でも進められるのではないかと。 * 実体験をお持ちの方の講演や話し合い等、増やしていけるといい。 * 小項目は活動・交流・公開を評価する物であり、実施されておればA評価では。 * 生きた教材を使えると更によい。児童の意識が高くなった事に感心した。	* 道徳の授業は、数年前より工夫され幅広い項目で実施されてきているので、さらなる教材研究の充実や資料確保が必要である。 * 道徳で学んだことを、実践につながる場(体験学習等)に生かしていく。
		道徳の授業研究や資料の整備・交流	学年や校内での授業研究・教材研究・資料の整備			
		保護者等への道徳の授業公開	年に1回以上授業公開			
	確かな学力	基礎基本の定着のための指導体制、指導方法の工夫改善	教員それぞれが研究授業をして授業力の向上	* 全国学力・学習状況の調査の結果から、本校の児童は基礎的・基本的な学力は身に付いている。また、課題となる内容を分析し、効果的な学習指導形態や「考えを表現できる」子どもに育てるため、校内研究等に取り入れ学力向上に努めた。 * 家庭学習の時間を発達段階にあわせ、適切な学習が家庭でもできるように工夫した。 * 児童・保護者のアンケート結果からも、全体的に楽しくよくわかる授業が行われている。教師が一人一回の研究授業を行い、また、校内研究会では外部からの講師を毎回招き指導助言をいただき、授業力向上に努めた。	* 考えをまとめ表現できる力をつけていただくことを大切にしていきたい。 * 「自分の未来」を授業参観でされたことで、好評でした。 * 学力向上も小中連携が欠かせない。「聞く」という事が小中共通の取り組みができれば理想的である。	* 教師が互いに連携しあって、児童理解を深めるとともに、指導法の工夫改善や教材研究を進める。
		保護者と連携した家庭学習(習慣化、提示、点検)	学年・学校で家庭学習を習慣化させ、提示し点検する			
		考える楽しさがわかる授業の構築	個々の教員が教材研究を十分に行い授業にのぞむ。			
		考えを表現できる子どもの育成	算数科を窓口に校内研究に取り組み児童の育成			
		さまざまな学習指導法の工夫改善(少人数指導・複数指導等)	少人数指導や複数指導等を中心に学習方法の工夫			
	体験活動	各種体験活動の積極的な実施	学習を理解し深めるための体験活動の積極的な実施	* 社会・理科・生活・総合的な学習の時間等、地域の方を招いて講話や活動の指導をしていただいたり、地域の自然や施設を利用した体験活動を実施することで児童の個に応じた理解が深められた。 * 発表会を開いたり、壁新聞などで掲示したりして、参観にこられた保護者や地域の方にも活動後の学習のまとめを公開した。また、地域の文化事業に参加して一般の方にも公開する場を持った。	* 様々な体験が学年でできるのは良いと思う。 * 地域のお店や工場など働く方の姿を学習は楽しそう。 * 学年毎に年間の一大行事として取り組んでいて、準備段階から子どもたちも楽しみにしています。これからも、続けて欲しいし、より思い出深いものになるよう願っています。	* 学級や学年内で発表にとどまらず、他学年の児童、保護者や地域の人を対象とした発表の場を設定していく。
		活動後の発表会等学習のまとめ	活動後の学習のまとめの方法を多様にする			
		発表会等への保護者等の参加	年に1回以上保護者等もふくめた発表会開催			
	特別支援教育	個別指導計画の作成	年度はじめに作成	* 保護者と常に連携を密にし、適切な教育支援が行われている。(特別支援教育支援員、学生ボランティア、地域ボランティアの活用による支援体制の充実を行ってきたので。) * 夏季休業中の校内研修により、教職員の知識が更に向上した。 * 個別指導計画は年度当初だけでなく、必要になった場合に作成している。 △担任、特別支援教育コーディネーター、保護者の話し合う時間を確保する必要がある。	* 少ない人数で一生懸命取り組まれている。加配が望めないなら地域の方に協力していただきやすい仕組み作りをしてはどうか。 多様な支援対応をしなければならないので大変だろうと思う。 * 通常学級在籍児童の特別支援教育の環境作りや研修が進められているのは良い。これからも進めて欲しい。 * 指導者の負担増にならぬよう、行いながら常に工夫して更新されたい。	* 個別の支援計画をしっかりと作成する。 * 保護者と連携しながら、特別支援教育を推進する。
		組織的・計画的な特別支援教育体制の確立	定期的に会議を開き特別支援体制の進捗状況を評価・検証			
		巡回訪問等を活用した校内研修	巡回訪問等を活用した校内研修を年2回以上する			
		教師・保護者の理解と協力を基盤とした学級経営	個を大切に学級経営を保護者に発信			
	生徒指導	交流学習、行事等共に育ちあう機会の充実	交流学級のみならず学年・学校全体で共に育ちあう場面の設定	* 学校を取り巻く状況等より、近い将来起こりうる問題を予想し、そのために今から対応しておかなければならないことは何かを考え組織として対応してきた。良い成果を生んでいる。 * 生徒指導部会等で各学年の様子を交流し、学校組織として個別対応に必要な児童に対応できる体制がとれた。 * スクールガード、民児協、学区民会議、子ども安全協等との連携がしっかりと取れた。	* 地域の会議にも良く参加されている。これからも続けてほしい。 * 教育相談体制は職員が少ない中大変だと思う。これからも地域の力を借りて欲しい。 * 地域の力が大切である。PTA(保護者)と地域と教職員が合同で子どもたちを見守っていく。	* いろいろな人の目で子どもたちが見守られるように継続していく。 * 地域への働きかけ、発信をより進めていく。
校内の生徒指導、教育相談体制の確立と組織的な推進		月に1回の共通理解と組織で問題解決				
子どもの自己指導力の育成と高めあう集団づくり		他者との関わりの中で規範意識を育て、自ら意識して行動できるようにする				
地域関係者、関係機関等との連携		スクールガード研修(2回)・民児協(3回)・ケース会議(随時)開催。学区民会議・こども安全協等に参加				
		全教職員の共通理解と、毅然とした指導	事案毎に報・連・相を徹底し、全教職員が共通理解し、学校全体が同じ姿勢で毅然とした指導			

大項目	中項目	小項目	努力目標	現況	意見、提言等	今後の学校改善に向けて	
確かな学力と知・徳・体の調和のとれた豊かなたくましい心を育成する創意ある教育の推進	進路指導	発達段階に応じた組織的、系統的な進路指導	保幼小中の連携を密にし、児童や保護者に情報を提供して、進路指導を行う。	* 本年度は幼小連携を深め、職員の合同研修や児童の交流が密になった。 * 学校として、PTA行事や地域の行事等の周知や参加のよびかけをした。児童が、いろいろな人と関わることでコミュニケーション能力の向上や人との関わり方を学習している。 * 個々の児童の発達段階にあわせて、中学校への進路決定に当たり、参観・懇談・体験入学を実施した。生き方について学ぶ機会を持っている。	* 子どもの夢、目標を持たせることができるようにしたい。	* 幼小中の連携強化やいろいろな分野で活躍している人の話を聞く機会を増やす。 * いろいろな体験や校外学習で、他者の思いや工夫などを知ることにより、自分の進路や生き方を考えていこう指導していく。	
		働く人の職場見学等体験活動	総合的な学習の時間・教科等において職場見学や体験活動を通して働く事へのあこがれを育てる。				
		子どものPTA・地域行事等への参加促進	子どもがPTAや地域行事等への参加をし、さまざまな人と交流することで自分の進路をひらく				
読書活動	読書活動	週1回以上の全校一斉読書	月・木曜日の全校一斉読書に取り組み、児童が豊かな感性をはぐくむようにする。	* 今年度より「さわやかタイム」において週2回の全校一斉読書に取り組み、落ち着いた雰囲気の中で授業に取り組みむことができた。 * 毎年、地域の「おむすびころりん」さんに月2回の読み聞かせと、お話を年に1回していただいた。(1~4年生) △音読や群読などの取り組みの発表の場を、学級から全校児童へ、始業式や終業式に設定したが、さらに増やしていきたい。	* 読書する機会が減っている子どももいると思うので、とても良い取り組みだと思う。 * 子どもたちの会話から楽しみにしている様子が見られる。 * 子どもの机に本が一冊入っていたり良く借りて帰って来たりするのは、指導が行き届いているからだと思う。 更に、発表の場をこれからも増やして欲しい。今後も音読を大切にしていって欲しい。	* 保護者にも協力をいただき、あらゆる機会をとらえて読書活動の推進に努めていく。 * 群読・音読等に今後も積極的に取り組み、発表の場を広めていく。	
		読書環境の整備や地域人材等の活用	図書室や学級文庫の充実。読み聞かせやお話会等地域人材の活用。さまざまなみ号・県立市立図書館の活用				
		音読、群読、暗唱等発表の場の設定	音読、群読、暗唱等の取り組みの工夫や学級・学年・全校・保護者等への発表の場を設定				
人権教育	人権教育	人権意識育成の基盤としての生活経験・生活習慣の確立。	多様な生活経験をさせ、家庭との連携を取りながら基本的な生活習慣の確立を行う	* 人権教育を道徳で扱う時に、子どもたちの心情に迫ったり、共感できたりする資料を用意し、取り組んだ。 * いじめが早期発見できるようにアンケートを2回、また、全児童に対して教育相談週間を設け2学期に実施したので、問題が大きくなる前に未然に防いでいる。 * 言葉遣いに気をつけさせたり、心ない言葉をなくす指導をしたりしている。優しい子が多いので、その都度話し合って考えさせ、解決している。 * 思いやり、優しさ、譲り合い、我慢などの心の成長を中心課題に生活集団が育っている。	* 良い取り組みがなされているので感心しました。自由に発言できる雰囲気作りが大切かと思う。 * とがすまされた人権感覚は普段から研修を進めていく必要がある。教職員に引き続き人権感覚の向上を願いたい。	* 学級が何でも話し合える支持的な雰囲気になるよう経営し、学級集団の充実を考えていく。 * 教職員の人権感覚を更に磨いていこう研修を重ねる。	
		思いやり、優しさ、譲り合い、我慢等の児童の心の育成	道徳教育の充実を図り、全教育活動において豊かな心の育成				
		支持的な学習集団の確立	学級経営においてお互いを認め合う学習集団の確立。				
		いじめの早期発見・早期解決	いじめに関するアンケートを年1回実施。個別の教育相談週間を設け早期発見・早期解決を図る。				
教育公務員としての資質能力の向上	校内研修	研究テーマに基づく校内研究体制の確立	本年度はさらに研究を深めるため、外部の講師より校内研究の指導・助言を受ける。	* 年間5回講師を招いての校内研修は、教員の授業力向上への大きな成果が得られ、今後に生かせる内容であった。 * 研究課題を追究し外部講師をできる限り招聘し多くの成果を生み出す事ができた。 * 夏季休業中に、教職員の服務規律の確保と不祥事防止の研修や防災研修を行い、教職員の職責の自覚を更に向上させた。 △校外で受けたさまざまな研修や、校内の教職員に伝達する機会を確保する必要がある。	* 講師を招いての5回の校内研修・校内研究は充実している。教員は実践者でもあり、研究者でもあり得る。	* ひとりひとりの教員の研究教科や得意分野を全職員に広め、教師力・指導力向上に努める。 * 来年度も講師を招いての研修を継続していく。 * 校外で受けた研修の伝達は、少なくとも文書や資料を配付し内容を知らせ有効活用する。	
		校外における各教員の研修効果を校内研修に生かす体制	校外で受けた研修内容を、学年や学校全体の教職員に伝達し、学校全体の教育力を向上させる				
		研修資料の整理等、研修意欲を高める環境整備	それぞれの分掌が中心となって、社会や教育環境の変化に伴う研修資料の収集や研修を行う。				
		不祥事防止・危機の予防に向けた研修の実施。	夏季休業中に教職員の不祥事防止、防災・危機管理の研修を各1回以上行う。				
新しい人事評価	新しい人事評価	年度当初の校長による教育目標、経営方針等の提示	年度初めの職員会議で校長より教育目標、経営方針等の提示をし、教職員の共通理解のもと取り組む	* 長期的なスパンで学校をどう変えていくのかという視点で、行動指針や課題解決に向けての具体的なビジョンを示し、信頼を得ている。 * 必要に応じて教育目標や教育課程等に反映させている。 * 自己目標は自分をふり返る良い機会になる。一年を通して自己評価ができ、子ども達の成長に対して指導方法の修正を常に意識できる。 △校長の学校経営の指針をより具体的に教職員にわかるよう、年間を通して伝えることが必要である。	* 人事評価が先生方の意欲付けにつながることを望みます。 * 全教職員が経営感覚で取り組まれたい。	* 各職員と話し合う時間を多く取れるようにしていく。 * 全職員が、自分自身も学校を経営しているのだという意識を高め、実践していかなければならない。	
		各教職員による適切な目標の設定	年度初めの校長より教育目標、経営方針等の提示をうけ自己の目標を設定する。				
		自己目標設定に際しての分掌や学年、教科等での情報交換	年度当初に校務分掌の引き継ぎ、自己目標設定をする。				

県共通	学校満足度	児童の学校満足度	*児童・保護者へのアンケート結果より約85%が学校は楽しいと解答。	落ち着いた雰囲気概ね楽しそうに登下校している。	楽しいと感じる学校づくりに取り組む。
-----	-------	----------	-----------------------------------	-------------------------	--------------------

達成度	指標
A	目標を上回る達成度
B	目標を達成または概ね達成
C	目標を達成せず
D	目標を大きく達成せず